



九州大学農学系新キャンパスの木造木質化を考えるシンポジウムを開催

概要

九州大学大学院農学研究院では平成 28 年 1 月 27 日（水）に、九州大学農学系の木造木質化に関するシンポジウムを開催します。これは、平成 30 年度に移転を予定している農場施設を始めとする農学系施設に相応しい木造木質化の可能性を探るため、専門家を招いて開催するものです。学校施設への木材の使用は、地球温暖化防止への貢献、地域の文化の継承、地域経済への波及などの観点からも大きな意義があり、九州大学農学系新キャンパスにおいても持続可能な社会の構築に向けた取組を模索しています。

本シンポジウムでは、新キャンパスにおけるこれまでの木造木質化を振り返るとともに、地域連携型施設として期待されている農場や農学系施設など今後の木造木質化の必要性、課題と対応策を検討します。

背景

大学等教育施設は、学生の学習の場であると同時に、一日の大半を過ごす生活の場でもあり、それに相応しい豊かな環境として整備することが求められます。木材は、やわらかで温かみのある感触、高い調湿性、リラクゼーション効果などの優れた性質を持っており、この性質を活用した校舎や、内装に木材を使用した教室等は、豊かな教育環境づくりを行う上で大きな効果が期待できます。また、木材の使用は、学生のメンタルヘルス対策にも有効と考えられています。このため、従来から文部科学省においては林野庁などと連携しながら木材を活用した学校施設づくりを推進しており、木造で建設される大学等学校施設の割合は毎年増加し、非木造の学校施設でも内装木質化が行われています。

内容

本シンポジウムでは、平成 22 年度に施行された「公共建築物等における木材の利用の促進に関する法律（※1）」に関する各種取組や課題について、専門家を招いて議論を深め、地域連携型施設として期待されている農場施設に相応しい木造化の可能性を探ります。

九州大学からは新キャンパス担当の安浦寛人理事・副学長より、キャンパス移転の状況および木造木質化の動きを紹介するとともに、農学系キャンパスへの期待を語っていただきます。

また、昨年末に決まった新国立競技場の木造化を早い段階で五輪担当大臣に提言してきた日本建築士連合会の三井所清典会長には、木造建築の意義と建築界の取り組みについて、林野庁木材利用課の吉田誠課長には国としての木造木質化の促進の考え方について、それぞれ基調講演をしていただきます。

その後のパネルディスカッションでは大学施設木造木質化の「必要性」、「課題と対応策」などについて議論します。

シンポジウムの概要は後述の通りです。

（※1）「公共建築物等における木材の利用の促進に関する法律」

現在日本では、国土保全など森林の多面的機能の低下が大いに懸念される事態となっています。このような厳しい状況を克服するためには、木を使うことにより、森を育て、林業の再生を図ることが急務です。本法律は、こうした状況を踏まえ、木造率が低く（平成 20 年度 7.5%床面積ベース）今後の需要が期待できる公共建築物にターゲットを絞って、国が率先して木材利用に取り組むとともに、地方公共団体や民間事業者にも国の方針に即して主体的な取組を促し、住宅など一般建築物への波及効果を含め、木材全体の需要を拡大することを狙いとした法律です。平成 22 年に公布、施行されています。

九州大学農学系の木造木質化に関するシンポジウムのご案内

日時：平成28年1月27日（水） 14時～16時30分

場所：九州大学伊都キャンパス（椎木講堂講義室）

総合司会 九州大学総合博物館長 吉田茂二郎 氏

開会挨拶 九州大学理事・副学長 安浦 寛人 氏
九州大学農学研究院長 平松 和昭 氏 （シンポジウム趣旨説明）

基調講演 木造建築の意義と建築界の取り組み
日本建築士会連合会会長 三井所 清典 氏
「公共建築物等における木材の利用の促進に関する法律」の概要と現状
林野庁林政部木材利用課長 吉田 誠 氏

パネルディスカッション

司会 佐藤 宣子 氏（九州大学大学院農学研究院 教授）
パネラー 安浦 寛人 氏（九州大学理事・副学長）
三井所 清典 氏（日本建築士会連合会会長）
吉田 誠 氏（林野庁林政部木材利用課長）
望月 俊宏 氏（九州大学農学部附属農場 研究部長）
吉村 正春 氏（糸島市林業研究クラブ）
長澤 悟 氏（東洋大学名誉教授）
阪根 宏彦 氏（有限会社 阪根宏彦計画設計事務所）

【お問い合わせ】
大学院農学研究院 准教授 藤本 登留
電話：092-642-2985
FAX：092-642-2985
Mail：fujipon@agr.kyushu-u.ac.jp